

大原社会問題研究所五十年史

V 戦後

久留間所長の退任

六五年度の年度末理事会、評議員会において寄附行為の一部改正と役員人事の異動が決定された。すなわち、—

(一) 理事および監事の任期三年(第一六条)を二年に改める。理事長のほかに常務理事をおくこと(第一三条)。

(二) 小田切秀雄教授(当時法大総長代行)および中島正教授(当時財務理事)を評議員に選任した。

(三) 新理事として、久留間鮫造、大内兵衛、渡辺佐平、有沢広巳、山村喬、中島正、宇佐美誠次郎、大島清、舟橋尚道の諸氏を選任した。

なお六六年四月五日の理事会で、久留間所長・理事長はその職を退き、研究嘱託・名誉研究員となること、後任には宇佐美理事が就任すること、また大島、舟橋両理事は常務理事となること決定された。大原研究所創立いらいの研究員であり、委員あるいは理事として、また戦後は高野所長のあとを受けて長らく研究所の経営に当たって来た久留間教授は、老齢の故をもって所長の席をしりぞき、今後は経済学辞典の編集に専心されることになった。

所員にも若干の人事異動があった。田沼肇兼任研究員の後任として、中林賢二郎氏が六五年四月より兼任研究員となった。永田職員の後任として是枝洋氏が九月より図書係として入所した。また六六年三月、中林倭子職員は退所し、後任に唐谷喜夫氏が入所し庶務会計事務を担当することになった。同日付で中林賢二郎兼任研究員は専任研究員となった。大島研究員は同年一月法大常務理事に就任した(翌年四月末辞任)。久留間所長の退任後、運転手をしてきた金鳳記嘱託は、今後、資料集収に協力することになった。

なお一九六五年度の研究所予算は一七二一万円であった。

一九六六～六九年 昭和四一～四四年 恒例の高野岩三郎先生追憶会は、一九六六年四月五日午後五時より私学会館において開催された。今回より高野岩三郎、櫛田民蔵の両氏をあわせて追憶することになった。この日、大内兵衛、森戸辰男、久留間鮫造、高野一郎、宇野弘蔵、野上弥生子、櫛田ふき、櫛田克巳、有沢広巳、笠信太郎、佐多忠隆氏らのほかに、嘉治隆一、本田喜代治、滝口義敏氏ら多数の人びとが出席し、高野、櫛田両氏の面影を偲んで話し合った。

六月二日には、久留間前所長の送別会が研究所内に開かれ、同月二〇日には栗田確也氏の主催で東京新橋・中国飯店において同じく送別の宴がひらかれた。久留間研究嘱託の経済学辞典編集の仕事は着々と進行し、この年内に編集用原稿(ドイツ文)のエレファックス複写は五〇〇枚に達した。

一九六四年より三カ年にわたって継続実施してきた「わが国労働市場の総合研究」は、最終年度をむかえ、実態調査と同時に研究結果のとりまとめの段階にはいった。実態調査は(1)阪神工業地帯における労働市場(舟橋、二村研究員担当)、(2)四日市臨海工業地帯、石油化学コンビナートにおける労働市場(大島、齊藤、小林研究員担当)が対象となった。また地域労働市場に関する統計

調査資料も多数集収された(こうして三カ年にわたり集められた地方経済統計調査報告等の文献コレクションは年度末に大原研究所に寄贈された)。実態調査の打切り後、報告書を取りまとめ文部省に提出した。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#)← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 →[次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)
